

いつの時代にも新しい技術、そして新しいメディアがあるもの。VRChatの世界は、まさにそういったもののひとつ。まだご存じない方は、ぜひお試しあれ!

高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台)

8月下旬に、天プラの面々も深く運営に関わった日本天文教育普及研究会 (www.tenkyo.net) の年会が行われました。我々が入会したのはもう17年 (!) 前のこと。自身は (少なくとも精神的には) あんまり成長した感じもしないのですが、ひとまわり以上も離れた若い会員の皆さんが一生懸命に発表されているのを見ると、時間は確実に流れていることに改めて気がつかされた次第です。

さて、今年の年会でもユニークな発表や熱い想いを感じる発表が多数ありました。後日集録が出るはずですのでぜひチェックしていただきたいのですが、こういった発表を聞いて強く感じたのは、なによりも悔しい! という気持ち。だって面白いんですもの、やってることが。やってる本人たちも楽しそうな雰囲気がよく伝わって来ました。特に天文の教育や普及を目的としていない天プラとしては、活動は楽しくなければ意味がなし。そう

いった意味では、楽しむことで負けていられません。

そんな私たちが最近出会った楽しそうな場所をご紹介します。それはソーシャルVRアプリである「VRChat」の世界。3次元の仮想空間の中にさまざまな世界を構築し、その世界を他の人たちとも共有できるという優れモノ。むかしむかし、ネット黎明期にさまざまなホームページが立ち上がって、あちこちでコミュニティが作られ始めていた時の混沌な感じをご存じの方は、それを思い出してみてください。それより若い世代にはごめんなさい、どう例えて良いのか分かりません。とにかくまずは検索して、いちど覗いてみることをお勧めします。

このVRChatで素晴らしい世界を展開されているのが、星ナビ7月号の記事「新型コロナウイルスに負けず星空を届ける」でもちらっと紹介した天文仮想研究所VSPの皆さん。ロケット打ち上げの再



天文仮想研究所VSPの皆さんによる見学ツアーに参加する高梨 (仮) の図。どれでしょう。

現、プラネタリウム、人工衛星博物館、天体写真美術館など、さまざまな宇宙系のコンテンツを作られています。しかも、良い意味で単なる趣味なのがとても素敵です。これらのコンテンツはすでに十分素晴らしくそれだけでもわくわくするのですが、こういったコンテンツを生み出せるVRChatの持つポテンシャルの高さがすごいですね。天プラが強みとする企画力やネットワークをVRChatの世界に持ち込んだときに、いったいどんなことができるのか。天プラならではの遊び方をいろいろ試していきたいと思ってます!